

日本からワシントン DC に桜が寄贈され 100 年目となる本年、本市が 100 周年記念樹の寄贈先として選定されたことを光栄に思います。国としての桜 100 周年記念事業というだけでなく、日本とノバイの強い友情を祝う場としてこの植樹祭に参加できることを嬉しく思います。そして本日の式典がこのような好天に恵まれたことも大変喜ばしいことです。

今、日本では桜が咲き、日本を訪問するには最も素晴らしい時期だと思います。さぞかし素晴らしい光景でしょう。日本の方々、満開の桜の下でピクニックをすることを愛しています。桜は今や日本と米国の友情のシンボルとなっています。毎年、何千という人々がワシントン DC に花見に出掛けます。本日この場にお越しいただいた松田総領事その他の友人たち、さらには市議会の仲間たちに感謝を申し上げます。この式典を共に祝うことができることに感謝いたします。

ノバイ市は、多様性を受け入れ、尊重することにより、グローバルな市民と、グローバルな企業にとっての「ふるさと」となりました。ノバイは日本との特別な結びつきにより、全米の桜植樹計画の場所のひとつに選定されました。私たちは将来にわたり、この木々に水をやり育みながら、日本とノバイの関係においても同じことを行っていることを思い起こすことでしょう。桜の花は、年々より豊かに花を咲かせていくでしょう。そして私たちは毎年桜の花の時期に、自分たちの成長と成功を祝うことができると確信しています。

私たちはミシガン州最大の日本人コミュニティを有することを誇りに思います。2500 人近くの人々と、65 社以上の日本企業がこのコミュニティを形成しています。彼らは多くの理由からノバイを選択したのです。学校、立地、住宅地など。そしてそれだけではなく、ノバイが文化プログラム、行政機関相互の交流、公共サービス、さらには企業、団体、行政機関、例えば在デトロイト日本総領事館やデトロイト日本商工会、デトロイト・ウインザー一日米協会など、との関係を通じて日本人コミュニティと関わっているからなのです。

本日の祝賀会は、こうしたこと全てを反映して行われているのです。そしてこの祝賀会は、1 週間にわたり、プロビデンス・パーク病院、ノバイ公立図書館、デトロイトりんご会日本補習授業校のあるノバイ・メドウズ小学校で行われてきた一連の植樹の集大成なのです。

さてここで、イズミ・マイヤーズを壇上に迎え、彼女の夫の人生を追悼したいと思います。彼女の夫は、日本人コミュニティとの関係を構築する上で、まさに草分けとして先導的な役割を果たした人、スティーブ・マイヤーズ氏その人です。

ノバイ市がスティーブのようなコミュニティメンバーを持てたことは幸運なことです。彼は、その想いをみんなと分かち合うことに何のためらいもなく、彼の情熱はまさに特筆に値するものでした。ノバイの多様性と日本文化を受け入れることについて、彼が与えたプラスの影響は永遠に生き続けるでしょう。メモリアル・ストーンを供え、この桜の木をスティーブのために捧げる前に、マイヤーズ夫人、ひと言お願いいたします。

(イズミ・マイヤーズさん挨拶)

石版に刻まれた言葉を皆さんにお伝えします。「ノバイの日本人に対する、永遠に続く友情、文化的理解、熱烈な支持の道を切り開いたコミュニティリーダーを偲び、称えて」

